

科目名	演劇表現演習Ⅰ							年度	2025
英語科目名	Dramatic Expression PracticeⅠ							学期	前期
学科・学年	声優・演劇科 2年次	必／選	選	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	岩崎正寛	教員の実務経験		有	実務経験の職種		俳優		
【科目の目的】									
個人ワークから始まりグループワークへ移行していく。演劇のメソッドとして、インプロビゼーションを取り入れつつ企画・構成を考えながら進める。自己の表現と他者の表現の違いを意識しながらよりよい表現方法を模索し、セルフプロデュース能力を育成。個人での企画制作とグループ単位での企画制作の相違点を理解し、一つのコンテンツを仕上げ、自己表現のあり方を習得することを目指す。									
【科目の概要】									
現代演劇やミュージカル、伝統芸能、お笑いなど様々な演劇表現を学びます。									
【到達目標】									
役を生き、観客に伝える力を養うこと。今後のオーディションやオンラインオーディションに必要なスキルを身につけることを目標とする。									
【授業の注意点】									
コミュニケーションを重視し、役割分担等、得意分野に限らず、主体的意思の元に行動し学ぶ姿勢を持つ学生を高く評価する。自らが考え、答えを導き出すことに重きを置き、積極的に参加することを求める。理由のない欠席は認めない。恒常的に出席することが基本原則となる。課題として課する物の提出は必ずすること。授業時数の4分の3以上出席をしない者は定期試験を受験することはできない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標A	腹式呼吸が完璧にできており、長い台詞・短い台詞を正しい発声法とブレスポイントを駆使することができる。	概ね腹式呼吸ができているが、息の量が少なくなった時に咽頭への力みが生じる発声をしている。	腹式呼吸を理論的に理解しているが、訓練不足により結果が出ていない。	腹式呼吸を理論的に理解できず、訓練方法の意図も理解できていない。	腹式呼吸やその訓練の重要性を理解せず、授業内において出席意欲を感じられない。				
到達目標B	初見の課題において、母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を的確に区別し、台詞として表現することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を自力で区別することができ、実践することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができるが、自力で区別することができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができず、区別していうことができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解しようとして、授業内において出席意欲を感じられない。				
到達目標C	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品について語ることができる。	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品のテーマを理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解しようとする意欲は見える。	戯曲を読解しようとする意欲がない。				
到達目標D	自分の役割を理解し、自己都合を一切感じさせず他者の感情に訴えかける表現を行うことができる。	自分の役を理解し、他者の感情を考慮しながら“役としての”コミュニケーションを図ることができる	自分の役を理解し、他者の感情を考慮し用としているが“役としての”コミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解できず、他者と目を合わせてコミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解しようとして、他者とコミュニケーションを図ろうとしない。				
到達目標E	遅刻・欠席をしない	遅刻はあるが欠席は少ない	遅刻・欠席が少ない	遅刻・欠席が多い	遅刻・欠席が非常に多い				
【教科書】									
レジュメ・資料は必要に応じて配布。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】									
小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		演劇表現演習 I				年度	2025
英語表記		Dramatic Expression Practice I				学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	ガイダンス	イントロダクション	1	演じる	演技について理解し実行すること		
2	セルフプロデュースへの挑戦	インプロビゼーション(個人)	1	個人で考える力	表現力・共感力・思考力・洞察力・想像力を鍛え、発信する		
3			1	発する力			
4		インプロビゼーション(グループ)	1	他者と考える力			
5			1	発する力			
6		シーンスタディ	1	少人数でのテキストワーク			
7			1	より発展的なテキストワーク			
8	オンラインオーディションへの動画撮影・編集	時間	1	AM	人がいない時間を考える		
9			場所	2		PM	
		音響		1		稽古場	
2			キャンパス				
10		照明	1	マイク	外気音、人の声を避ける		
			2	楽器			
			3	SE			
11		照明	1	地明かり	時間・場所、明るさを考える		
			2	ハロゲン			
			3	L E D			
12		服装	1	和服	用途に合わせる		
			2	洋服			
13		メイク	1	メイク道具	自分にベストな状態を創る		
			2	ファンデーション			
14	髪型	1	ヘアメイク				
		2	髪				
15	前期試験	総括	1	上映	俳優としてのスキルを磨く		
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他							
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった							
備考 等							